

第4回焼津市自治基本条例を考える市民会議

～各班の成果・まとめ～

平成24年1月22日（日）実施

- テーマ：「オールやいづ」のまちづくり（自治）をよりよく進めていくために、共通のルールに盛り込みたいこと

【市民】に関すること

- ・市民一人ひとりが、世代間・立場の分け隔てなくお互いに健康でいきいきと暮らせるよう助け合う
- ・市民一人ひとりが、焼津を学び、焼津を発信できるよう心掛ける
- ・市民一人ひとりが、環境に配慮し、人と自然を調和させていく
- ・市民、議会、行政の役割から、市民の責務を明確にする
- ・市民一人ひとりが、自らの命を守るための備えをする
- ・市民が集い、つながるコミュニティづくり
- ・市民全員が当事者意識を持つ（“山田さん化”の推進）
〈全体的話し合いで追加された項目〉
- ・市民の権利 例)参加、住民投票
- ・事業者の役割
- ・外国人→レクチャー必要
- ・住民でない人も貢献できる、大事にされる
- ・地域の自治、市民活動

【議会・議員】に関すること

- ・自治基本条例が順守されるように、評価委員会を設置する
- ・議会が活発に活動してほしい（市民目線で）
- ・議員活動を市民に分かり易く伝える
- ・議員の役割として、自らが政策提案に努める
- ・議会は条例を守り、議会の運営を行うこと
- ・条例の文中に、議会及び議員の役割を明記すること
- ・自治基本条例と議会運営のための諸規則を見直すこと
- ・議員の役割として、広範囲な市民意見の聴取に努める
〈全体的話し合いで追加された項目〉
- ・行政、議会の仕事ぶりの評価

【行政】に関すること

- ・協働のしくみづくり（責任と役割）
- ・情報の共有…収集、提供、場づくり（全ての人アクセスできる）
- ・効率的な財政運営
- ・縦割り行政の廃止、組織運営の見直し
- ・前倒主義の廃止
- ・新しい公共政策（行政だけでやるのではなく、行政・市民の役割を見直す）
- ・PDCAの徹底（各段階において、市民・議会の参画・協働を保障する）
- ・行政職員も「市民」であることを意識する（市民目線）

- ・意見を知る場、言う場を（市民パブをつくる！）
 - ・危機管理対応（市民と協働するもの）
 - ・安心、安全なまちづくり（・司法警察、市民と協働した防犯、防災　・事故の防止）
 - ・医療の充実（・料金設定　・災害時の体制）
 - ・子育て（・物心両面のサポート　・保育施設の充実　・地域の資源、人、ものの活用）
 - ・高齢者、障がい者にやさしいまちづくり（福祉の充実）
- 〈全体的話し合いで追加された項目〉
- ・行政　この条例の運用について、基本的考え方・しくみ
 - ・市の公共施設を安心して使えるように（焼津版ハートビル条例）
 - ・条例の実効性の確保
 - ・この条例の見直し

【まちづくり・しくみ】に関すること

- ・情報の公開（発信）、共有…目に見える議会・行政・市民
- ・コミュニティの場
 - ☆既存の場（公民館・公会堂）の有効活用と情報発信
 - ☆まちづくりのサポート・コーディネート及び育成
 - ☆市民がまちづくりに参加しやすい場づくり
- ・安心、安全
 - ☆医療・福祉・防災の環境づくり
 - ☆交通ネットワーク（ゆりかごめ）の充実
- ・文化、歴史　焼津のいいところ探しと発信
市民がいいところ探しの記者になる『焼津 Love』→情報発信
- ・議会、行政及び市民の各々の立場で出来る責務を果たすよう努める
- ・参画協働（目的の共有、対等な関係、相互理解、自主性の尊重）
- ・子どもが多様な世代との交流、未来を担う子どもたちのまちづくり参加と育成
- ・焼津の資源を活かした健康づくり（海（魚）・川・山）

【自由に】

- ・歌でまちを明るくする
- ・市民が自発的に参加したくなるしくみづくり
- ・責任所在の明確化
- ・情報を“取りに行く”ための市民の意識改革
- ・情報公開とその共有化推進
- ・焼津のまちを国際拠点に…例えば表記は日本語以外も義務付ける（スペイン語、中国語、ポルトガル語、ハングル、英語）
- ・市民、行政の協働（コラボレーション）を促すしくみづくり
- ・概念だけでなく、具体的な方策も盛り込む